



まちのニュース 特別編

自分への挑戦

先月号に続き、今回も全国大会で活躍した子どもたちを紹介します。
勝負の夏の大一番に向けて、昨日までの自分に挑み続けてきた皆さん。
達成感、充実感、悔しさ、感謝——
本気で打ち込んできたからこそ、それぞれの声に熱い思いがあふれます。



第50回ピティナ・ピアノコンペティション
銅賞
本田ひまりさん（内子中2年）

コンクールでは4曲を披露しました。最後に演奏したショパンのエチュードは、これまで私が選んでこなかったタイプで、チャレンジといえる難しい曲。ピアノの先生の提案で、今回のために2カ月練習してきました。常に指を独立して動かす高い技術が必要で、4つの声部のどこを際立たせるかで印象が変わります。自由度が高い分、気ままに弾くと崩れてしまう……。バランスは感覚頼みです。私らしいエチュードになるように、本番まで先生と一緒にた

「私の音」を見つけていきたい

くさん研究しました。意識は「歌うように、きれいに」。表現をこれまで以上に考え抜いたことで、奏者として一つ成長できたかなと思います。先生はいつも答えを教えるのではなく、私の感性を引き出してくれます。「演奏に個性を出すのは難しいこと。だんだん『ひまりの音』が芽生えてきたね」と言ってもらい、うれしかったです。これからいろいろな曲に挑戦して演奏の幅を広げ、自分にしか出せない音を見つけていきたいです。



自宅でピアノに向かう本田さん。演奏が始まるとスイッチが入ったように、雰囲気が一変。軽やかな指使いで音を奏でていく。



第26回ボーイズリーグ鶴岡一人記念大会
第3位
片山 心結さん
（五十崎中3年・大洲ボーイズ）



泥臭くて格好いい野球が刺激に

女子野球の中四国選抜チームの一員として出場しました。ピッチャーの私は大会に向けて、変化球をいいコースに投げられるよう、とにかく投げ込みました。準決勝では優勝候補の関西チームと対戦。中盤まで0対0の接戦でしたが、その後は満塁のピンチで失点し、決勝進出を逃しました。相手はブレーのレベルも高かったけれど、選手たちが大きな声を出し、最後まで必死にボールを追っていました。自分たち以上に泥臭く野球をする姿は格好良く、大きな刺



背番号は社会人野球経験者の父と同じ「28」。家族からの「心結ならできるよ」という言葉は、何よりの力になっているという。

激になりました。笑顔と明るい雰囲気は、私たちのチームも負けていません。「もっと上を目指したい」という気持ちは、一層強くなりました。最高学年になった今、同級生と一緒にチームを引っ張ることを意識しています。互いに「後輩の手本になろう。だからしないプレーは絶対にしない」と約束。人見知りで、これまで自分に集中してきた私ですが、みんなで勝った喜びを分かち合えるのが、今は一番楽しいです。負けず嫌いを力に変え、もっと成長したいです。

令和8年度全国高等学校総合体育大会ソフトボール競技大会

船本 烈凰さん（東温高2年）



「やってきたことをやればいい」

1年生で出場した昨年は準優勝し、「今年こそ優勝」を掲げてきました。結果は5位と悔しいものでしたが、ミスがなければ今年の優勝チームにも負けてはいません。自分たちの強みは、隙のないソフトボール。守備の連携ではさまざまなシーンを想定し、細かな動きを徹底してきました。以前はミスをして落ち込んでいましたが、父に「自分たちがやってきたことをやればいい」と言われ、吹っ切れました。下宿で競技に打ち込める環境と、支えてくれる先生や家族への恩を、次こそ「優勝」で返したいです。

第64回全国高等学校ライフル射撃競技選手権大会

エアライフル 立射競技女子

高岡 幸音羽さん（伊予農業高3年）



「最後は笑顔で」家族に感謝

昨年に続いての全国大会。レベルの差を感じた去年の悔しさを胸に「笑顔で終わろう」と決めていました。目標の600点を越え、ほっとしました。スランプも苦しさもあった3年間。納得いくまで練習したからこそ、乗り越えられたのだと思います。最後の一発を打ち終えた時は「これで終わりか」と、複雑な気持ちでした。飽き性の自分に、こんなに集中力が付くなんて（笑）。自分のやりたいことを、家族はずっと応援してくれて、「お疲れ様」と声をかけてくれました。心から感謝しています。

第19回書道パフォーマンス甲子園

大西 結月さん（伊予高2年）



書道がもつと好きになった

初出場で担当したのは一番右の行。全体の基準となる重要な役目に緊張しましたが、任せてもらえてうれしかったです。作品のテーマは「自己形成」。悩んだときも見方を変えれば答えにたどり着く、というメッセージを込めています。パフォーマンスを高めるために練習から部員同士が本気で言い合い、学年を超えてつながりを深められました。来年は仲間と一緒にプレッシャーを乗り越え、最高賞の文部科学大臣賞を取りたいです。書道がもつと好きになった、忘れられない大会になりました。

令和8年度全国高等学校総合体育大会陸上競技大会

男子ハードル 400m

吉田 琥珀さん（内子高3年）



先生に導かれた未知の世界

高校から陸上を始めました。元は長距離でしたが、ハードル専門の先生の勧めで、この種目に挑戦。最初はとにかく体力的にきつく、走り、ハードリング、リズムなど考えることが多くて「本当にできるのかな」という感じでした。先生はそんな僕を一から熱心に指導し、伸び悩んだ時は一緒に考えてくれました。こんなに先生と近く、細やかに教われる環境はありません。先生の異動が決まった時の約束「インターハイ出場」を果たせて、本当に良かったです。あつという間で、充実の3年間でした。



第41回日本クラブユースサッカー選手権U-15大会
日浦小治郎さん（内子中2年）
宮岡 虎蒔さん（内子中3年）



第71回全国高等学校軟式野球選手権大会
渡邊 桜太さん（新田高1年）
高円宮賜杯第46回全日本学童軟式野球大会
マクドナルド・トーナメント
渡邊 桐士さん（内子小5年）

去年の同大会では1勝もできず、予選敗退でした。その悔しさを忘れずに今回「勝ち」を取れたことは自信になりました。僕らのチームは技術が高い人、体力がある人など個性あるメンバーぞろい。そんな自分たちの持ち味を出せば全国でも戦える、とみんなが感じたと思います。サッカーは僕にとって最高のチームスポーツ。全員が一つになって得点を目指し、勝つ喜びは他では味わえません。学年が違う選手も一緒に、プレーの中でコミュニケーションをとる力も磨かれます。人としても成長しながら、次は今回を上回るベスト8を目指したいです。

成長できる最高のスポーツ／宮岡さん

物心ついた頃からボールは身近にあり、自然とサッカーを始めました。正確なパスやシュートが得意で、チームではボランチとして中盤で攻守をつなぐのが役割。イングリッド代表のジユード・ベリンガムのように、攻撃も守備もハイレベルなプレーヤーになるのが目標です。全国大会では予選のグループステージを3位通過し、大阪の強豪チームと対戦しました。技術は高いけれど、全く勝てない相手ではないと思います。うちはしっかり動いて勝つチーム。自分の課題である体の強さとスピードを上げられるよう、冬に向けて鍛え直します。

全てにハイレベルを求めて／日浦さん

兄の野球について行ったのがきっかけで軟式野球を始めました。ソフトボールより打球が飛んで楽しいので、特にバッティングが好きです。課題は苦手なアウトコースを打てるようになること。全国大会では攻撃がいいチームが多かったんで、負けないように練習したいです。2人の兄はノックをしてくれたり、僕の試合の動画を見てアドバイスをくれたり、今もときどき野球を教えてください。僕もあんなふうに速いボールを投げられるようになるのが目標。来年は6年生なのでチームをしっかりと引っ張れるよう、何事も全力で取り組みます。

兄の教えを胸に「全力」で／桐士さん

1点が重い軟式野球の魅力／桜太さん
2回戦で福岡県の強豪校と対戦しました。0対1で追う展開、チャンスで1点を奪い切れませんでした。軟式野球は点が入りにくいのが特徴で、面白いところ。ミスをしない粘りと、好機を逃さない勝負強さが大切だと思います。小学1年からソフトボール、中学では硬式野球を経験しました。部活動で大会に出るため軟式野球に移りましたが、3年生最後の県大会に出場できず不完全燃焼に。もっと打ち込みたい、と高校でも続けることにしました。僕はピッチャーでボールの強さが持ち味。もっとコントロールを磨いて、相手に1点も取られない、頼られる投手になりたいです。

頑張る皆さんを応援します

—内子町の応援金・激励金交付事業—

内子町では全国大会や国際大会の出場者に応援金などを交付しています。出場が決まったら、まずは担当課へお問い合わせください。

●対象の大会

- ▶国などが主催または共催する全国規模の大会で、県大会などの予選を経て出場するもの
- ▶国内の予選を経て出場する国際大会

《内子町がんばる子ども応援金》

●対象者または団体

- ▶個人 町内に住む未就学児、小中学生、高校生
- ▶団体 町内の小・中学校、高等学校の所属団体

●応援金

- ▶全国大会 個人1万円、団体10万円以内
- ▶国際大会 個人3万円、団体30万円以内

《内子町スポーツ大会出場激励金》

●対象者 町内に住む人（高校生以下を除く）

●激励金 全国大会1万円／国際大会3万円

☎131707

【申込・問い合わせ】

内子町教育委員会 自治・学習課

☎0893（44）2114